

2024.9.19



地域日本語支援ニュース こだま 第 447 号

ともに生きる

～地域で、日本で、そして世界で～



★—— メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます。——★

【地域日本語支援ニュース 「こだま」】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会（AJALT）発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

★—— 皆様からのご意見、ご感想をお待ちしています。——★

編集部： <https://www.ajalt.org/local/soudan/contact.html>

---

## ■ともに生きる：ブラジルから日本へ■

令和 5 年度文化庁長官表彰授与式が 2023 年 12 月 19 日、京都の会場で行われました。総勢 87 件（個人と団体）、日本語教育関係者からは 15 人が表彰されました。都倉俊一長官から一人ひとり、名前を呼ばれて賞状を手渡しされる、そのときにひときわ大きな声で「はい」という返事が響きました。豊橋市立東陽中学校の伊木ロドリゴ先生でした。1986 年ブラジル生まれ、9 才で来日しその後、愛知県教員採用試験に合格されて教員となり現在にいたる道のり 2 回シリーズの後半をお届けします。（前半は 8 月 15 日発行 446 号）

---

### 「ブラジルから来たロド先生」2

～変な言語と変な文化との出会い～

愛知県豊橋市立 東陽中学校教諭 伊木（いぎ）デフレイタス ロドリゴ  
（伊木 Defreitas Rodrigo）

#### ◆ブラジルから日本へ

1996 年 6 月 3 日。家族がまた一緒に暮らせるようになり、ロドリゴとアンドレ兄弟は安心と喜びに満ちあふれていました。そして、ウルトラマンやテクノロジーの国「Japao（ジャパウン）」に来られたことに心が高揚していました。自動販売機、パチンコ屋さんの建物、コンビニ、町の落ち着きと静けさ、お店の店員さんのおもてなし精神、そしてシンプルながらも清潔な道路たち…

来日の初日から想像していなかった驚きと感動に出会いました。「子どもだけでも暗くなるまで遊んでいても安心安全。ものを盗られる心配も命の心配もない。」そう、一番目に日本に惚れた（ほれた）のは父親でした。

#### ◆想像を絶する日本語学習

ロドリゴとアンドレは以前母親が使った教材で日本語の勉強を始めました。ポルトガル語とは大きく異なる日本語の学習は想像を絶するものでした。

辞書で調べた単語を近所の子に使ってみてもポルトガル語の読みと「ローマ字」のそれと異なり、なかなか通じません。せっかく覚えても「使えない日本語」の学習にイライラと絶望感を感じていたことを覚えています。「9月から学校へ行くのは怖すぎる。さすがに無理だ。」と思っていました。

#### ◆さまざまな壁

日本人の友達ができないまま、日本の文化や何もかもわからないまま9月1日、ロドリゴは4年生、アンドレは2年生へ転入学の初登校日を迎えました。

自己紹介、授業、日直、給食当番、飼育係、掃除、係の仕事、委員会、部活・・・日本の学校の一週目にいきなりこれらすべてを経験しました。全く話せない言葉との生活はとにかく不安の日々でした。来日当初には今のような言語の初期指導や国際学級のような教室は設けていませんでした。3年ほど言葉、学習、文化、人間関係、いじめ等さまざまな壁にぶつかりました。

#### ◆外国人であることは悪いことではない！

中学校へ入学し、理解者となり、厳しくも愛情たっぷりの担任の先生と出会いました。それまで感じていたいろいろな不安が吹き飛び、「外国人であることは悪いことではない！ 僕も日本で輝く！」という目標ができました。

3年間サッカーや勉強に励み、愛知県立御津高校に入学しました。高校では、愛知県選抜に選ばれるなどサッカーの面でも勉強面でもうまくいっていました。

#### ◆突然の白血病を乗り越えて

2003年3月、高校1年目が終わろうとしているとき、突然、病（やまい）に襲われました。白血病です。生存率50%の診断を受け、7か月の入院と抗がん剤治療の生活を強いられました。つらい治療に耐え、骨髄移植はせず抗がん剤治療だけで元気を取り戻しました。2003年10月9日が退院記念日。

7か月入院していたため、高校2年生の学年は留年となりましたが、良いこともありました。もともと普通科でしたが、入院を機に英語科に転科が許さ

れました。

その年、英語スピーチコンテストで愛知県チャンピオンになりました。さらに、愛知県立大学の英米学科の推薦入試が始まったのは2006年度の入試からで、まさに私が受験する年でした。通常の学年で卒業していたら、推薦を受けることも受かることも、愛知県立大学で学ぶこともなかったと思います。

#### ◆常に全力で学ぶ

大学では、英語の先生になるために教職を取りながら、英語はもちろん、スペイン語、フランス語、ラテン語も学び、日本語教授法も学びました。「大学で学べることは当たり前ではなく、チャンスをくれているお父さんとお母さん、そして教育の機会をくれる日本のおかげ」という精神はずっと大切にしていました。ブラジルにいたらおそらく大学に行く余裕はなかったと思います。ですから、感謝の気持ちとハングリー精神で常に全力で学びを吸収しようとしていました。

少しでも人の役に立とうという一心で、弟と力を合わせて親の協力で、2007年から2010年3月まで同胞のブラジルの人に向けた日本語教室にも取り組みました。

#### ◆「熱さ」と「温かさ」そして「本気」をばらまいて

2009年8月、愛知県の教員採用試験に合格し、2010年4月から中学校の教員として勤めています。

「生きていることは素晴らしい！」「大人って面白い！」「夢は叶う！」「人生を無駄にするな！」そんなメッセージを日頃から若いみんなに伝えています。

大好きな英語と大好きなサッカーを教え、未来を創り上げる若者たちにメッセージを届けられる、そんな仕事が大好きです。悩むことも、やりたくないことも、大変なことも、もちろんありますが、感動もあり、うれしいこともあり、熱い涙もあり、喜びもあり、達成感もあり、感謝もしてもらえる。それが教員の仕事だと思っています。

これまでいろいろな苦労もありましたが、苦労のない喜びなど、真の喜びではないと思います。自分ひとりの力は小さいですが、少しずつ「熱さ」と「温かさ」そして「本気」をばらまいて少しずつでいいからより素敵な日本になっていったら生きてきた意味があるのかな、と思っています。毎日に目標とミッションをもって、これからも全力で生きていきます。

これを読んでいるあなたも、全力で生きてください！ 人生って本当に面白いから！

---

令和 5 年度文化庁長官表彰 名簿並びに受賞理由

[https://www.bunka.go.jp/koho\\_hodo\\_oshirase/hodohappyo/pdf/93977401\\_02.pdf](https://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/pdf/93977401_02.pdf)

受賞理由は以下の通り記されています。

幼少期に来日し日本語を習得した経験から、大学在学中に外国につながる子供のための日本語教室を開設し支援に取り組み、卒業後は全国でも数少ない外国籍の学校教員として教壇に立つ傍ら、県内外で日本語教育支援、キャリア教育や命の大切さについて講演を行うなど、我が国の多文化共生に大きく貢献している。

---